

ネットモニター調査の枠組みと設計の視点

1 アンケート調査の枠組み

(1) 調査手法

アンケート結果を活用し、国内分析を実施する都合上、アンケートの実施から回収までの期間が短期間である(12月中に調査を実施、1月中に第1次集計を出力)ことから、ネットモニター調査を行う。

(2) 調査対象および対象数等

本調査では都道府県別の集計を行うことが求められている。都道府県単位で一定数のサンプルを確保するためには、調査対象を狭めすぎないように配慮する必要がある。

そこで、調査対象については、「25～44歳男女」とする。

【調査対象・設問数】

- ・全国の25～44歳の男女約5000人を対象とする。
- ・各都道府県別に100～120件程度を確保する。
- ・設問数は30～40問程度とする。

【選定方法】

- ・全国のインターネットモニター登録者より、上記の条件を満たす国民を抽出する。

2 アンケート設計に当たっての考え方

(1) 国内指標分析について

国際指標の意識調査との対応関係への配慮(意識調査)

国際指標との対応関係を踏まえ、国際指標で「意識調査結果」を採用している指標については、原則として国内でも同様に意識調査によって把握することとする。

ただし、国内と諸外国では文化的背景等が異なっているために同じ問い方が困難なものも含まれている。そのような指標については、該当する分野、分類の趣旨を満たす別の指標を設定し、アンケート調査を行う。

社会環境指標としての的確性への配慮(実態及び意識調査)

昨年度の国内指標の分析検討において設定した統計的指標を精査する過程で、改善及び補強することが必要と考えられる指標が抽出された場合については、アンケートによりデータの収集を行う。

(2) 働き方に関する分析について

日本のホワイトカラーは一般に、「時間あたり生産性」という概念が薄く、このことが個人レベル、および組織レベルでの効率的な時間配分に対する意識の低さにつながっている。一方、時間あたり生産性の維持もしくは向上が意識される数少ない場面として、「育児・介護休業取得者が出た場合の職場」や「育児や介護のための短時間勤務取得者が出た場合の職場」があるため、当該対象者の「仕事の配分の変更と効率性アップの工に対する意識などを把握するアンケートを行い、働き方と効率の関係等を探る基礎的な情報とする。